秋田県立六郷高等学校

第３回学校運営協議会　議事録

実施日：令和８年２月１８日（水）
時　間：１５：２０～１６：４５
場　所：六郷高等学校　会議室

出席者

佐藤　良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
栗林　　守	美郷町教育委員会教育長
小西正一郎	教育振興会会長（外郭団体代表）
大阪　瑞穂	美郷中学校校長（地元中学校代表）
小松　　勉	地元町内会代表（地域代表）
鈴木　正洋	美郷町町議会議員（地元メディア代表）
長谷川幸子	美郷町議会議員・議会広報常任委員会委員長
藤岡　誠人	町活性化団体（地元ＮＰＯ団体代表）
熊谷　尚輝	前ＰＴＡ会長
高橋　　郷	福祉施設経営者
山城　寛幸	校長
佐藤　純一	教頭
草薙　　均	事務長
照井　正喜	特別活動部主任
佐藤　隆弘	生徒指導主事
芦原　康一	総務部主任・研修部主任
高木　敦子	福祉科科長
石川　　昇	教務主任
粟津　奈々	保健安全部主任
鎌田　裕太	ＣＳ担当

１　開会行事　１５：２０～１５：２５（５分）　司会：鎌田

⑴　開会

⑵　学校運営協議会会長挨拶

先日、六郷高校と美郷中学校の生徒の協力の下、六郷のカマクラ行事が無事に終わった。２月８日、東京にて六郷高校同窓会関東支部の総会があり、山城校長と参加した。コロナ前は１００名を超える参加者がいたが、減少が続き今回は３０数名の参加者であった。参加者の中で一番若い世代が私と同じ２８期の卒業生であったため、今後の運営に不安を感じる。是非若い世代に参加してもらわないといけない。山城校長より、「県北では他校の卒業生も同窓会に参加できる。」という話を聞き驚いたが、そのような変革も今後は必要になると感じた。

今日は今年度の総括の協議会である。学校評価の分析をし、皆様から意見をいただ

き来年度に向けての取組につなげたい。奇譚のない意見をお願いしたい。

(3) 校長挨拶

例年、第３回学校運営協議会は分掌業務の反省や学校評価アンケートについての協議がメインだが、今回は前半に第２回学校運営協議会の振り返りを行う。前回の学校運営協議会では「魅力特色ある学校づくり」をテーマに、生徒を交えての協議であった。そのとき拾い上げた手立てを資料の４ページにまとめた。今回ははじめに、これについての確認や協議を行いたい。

今年度の高校入試の出願状況についてお知らせする。定員７５名に対し、特色選抜１名、一般選抜２７名の合計２８名であった。昨年度より数名減ったが、２次募集でも数名の志願があるものと考える。生徒数に関しては、現状維持または減少と見込まれる。生徒数が減ると学校行事が活発に行われなくなったり、生徒会やクラス経営、部活動などの組織が弱くなったり、結果として魅力のない学校となり志願者が減るといったような負のスパイラルに陥る。それを打開するためにもＣＳの力を借りて学校の魅力を作っていかなければならない。本協議会は委員である地域関係者の皆様と共に、六郷高校をどのように創っていくかということを目的としているので、趣旨を御理解いただき意見交換ができればと思う。

２　協議Ⅰ　１５：２５～１６：２０（５５分）　進行：鎌田

「第２回学校運営協議会の振り返り」

（鎌田）

前回の学校運営協議会の振り返りをする。資料の４ページについて校長が説明をする。まずは「①タブレット（ＢＹＯＤ）購入のための美郷町からの補助の申請」について説明する。

（山城校長）

前回の運営協議会から拾い上げた項目をランダムに記載している。大きく、学校内で進めるもの、学校外から支援を得て進めるもの、学校内外が協力して進めるものと分類できると考える。すでに動き出しているものもあるため、その報告や確認と今後の展開を協議したい。

①について。令和９年度からＢＹＯＤ（Ｂｒｉｎｇ　Ｙｏｕｒ　Ｏｗｎ　Ｄｅｖｉｃｅ）が始まる。本校では新入生、新２年生に個人持ちのタブレットの購入をお願いする。大仙仙北地区の高校のほとんどが、本校と同じように購入をお願いするようである。前回の学校運営協議会で、タブレット購入の補助が出ないかとの話があった。それを受けて鈴木委員が美郷町に問い合わせてくださった。「高校からの正式な申請があれば」とのことだったが、栗林教育長と話したところ、学校に直接現金で補助するのは難しいとのことだった。今使っているタブレットの補償が切れるのであれば、その補償の補助をすることや、町で使った中古のパソコンを提供できるかもしれないといったお話はいただいた。しかし、本校で現１年生に行ったアンケートでは、ほとんどが学校で推奨するタブレットを購入するという回答で、中古の端末を希望するものは１名しかいなかった。

（栗林委員）

前回の学校運営協議会後、鈴木委員からこの件について連絡をいただいた。その後校長先生ともやりとりをしたところである。実現はなかなか難しそうである。教育委員会内に財政にいた職員もいるため相談してみたが、もしこの補助をしてしまうと、他の高校生にはどうするのかという話になってしまう。また町内在住の生徒、町外の在住の生徒が混在している中で、直接的な支援は難しい。また、「これも、これも」となりかねない話である。現段階では補助については実現は見込めない。

ちょうど今、小中学校のパソコンの入れ替わり時期であった。小中学生が使った端末を高校生にと考えたが、国の補助を受けて町が購入したものであるため、他への利用はできない。ただ、職員が使っていた端末であれば可能であるが、台数も少なく実現が難しい。

（山城校長）

次に「②校内でのスマホの使い方」について。生徒指導部から説明がある。

（佐藤隆弘）

本校では登校後スマホを預かっている。帰りのＳＨＲで返却し保護者との連絡は玄関でのみ許可している。近隣のすべての高校で預かっているわけではないが、朝に電源を切り、鞄にしまわせており、日中の使用は許可していない。そういった中で生徒から「もっとスマホを自由に使いたい」といった声が上がったが、生徒がどういった場面で使用したいのかが分からないため、それを把握するためにアンケートをとる。しかし、教育活動時間にスマホを利用して他人とコミュケーションをとるのがよいものかという疑問は残る。現状、本校ではＳＮＳがらみでの問題が圧倒的に多く、人間関係悪化につながるということからかなり慎重に動いている。

また、スマホで検索したいと申し出があったとしてもそれはタブレットでできることである。スマホはゲームやＳＮＳを気軽に利用できる状態にある端末であり、教育を受ける場でそれを自由に使わせてよいものなのかと感じる。教育の現場で必要なことはタブレットで十分まかなうことができる。他校でもＢＹＯＤとしてスマホは認めず、タブレットの購入をしてもらうことにしているようだ。

（山城校長）

校内で話し合った中で、写真を撮ることや、検索することはタブレットでできるという結論であった。ただ、生徒の気持ちを考えると頭ごなしに不可ともいかないものと考える。まずは「何に、どのような活用をするのか」ということを把握するためにアンケートを取るというところまで話が進んでいる。

次に「③外観のイメージチェンジ、自動販売機を充実させてほしい」について事務長より説明がある。

（事務長）

学校から業者に自販機を置いてほしいとお願いすることはない。業者から設置願いが出るのが普通である。購買であれば、年間２万円程度の場所の使用量と光熱費代は業者持ちとなる。自販機に関しては入札制で、一番高いところに落札する。現在の業者は年間５０万円ほど支払っている。仮に自販機を設置するとなれば、この生徒数だと業者は持ち出しが必要になる。それでも設置したいという業者があるかどうかとい

う問題になる。購買は、申請の段階でかなりの数の資料を提出しなければならない。このことが業者にとっては負担であるだろう。

（山城校長）

生徒のために、この条件でやってくれる業者がいればと思う。学校としてはスペースもあるため設置に関しては拒む理由はない。委員の皆様で紹介ができるようであればお願いしたい。

次に「④県内唯一の福祉科のある学校ということを、多くの人に知ってもらえるよう情報発信するのはどうか？」について。

「福祉科がある」ということだけでなく、資格取得のメリットをもっとうまくアナウンスしてはどうかという話になった。昨秋に松田町長、佐藤会長と話をした際に、パンフレット作成にかかる費用は町でも出せるかもしれないとのことだったので、どのようにするかを考えていかなければならない。公式インスタのフォロワーは増えているため、これは継続したい。またＳＮＳを担当する部活動をつくるのはどうかなどという意見も校内では上がった。

栃木県ではマスコミと連携し、学校行事を記事にしてもらっている例もある。学校の良い面のアピールをしていかなけばならない。

このことについて何か意見はあるか。

（佐藤会長）

賃金にどれくらいの差が出るものなのか。

（高橋委員）

施設によって違いはあると思うが、介護福祉士の資格を持って入社した場合は即正社員になるところが多いと思う。資格がなければパートからのスタートになるところが多い。額面でいえば、月額１万円から２万円の違いが出てくるのではないかと思う。こういった違いを具体的に示していけばよいのではないか。

（山城校長）

次に「⑤飯詰駅から学校までのシャトルバスがあれば大仙市内や横手市内からも入学者が増えるのでは？」についてＣＳ担当より説明がある。

（鎌田）

１、２年生を対象にアンケートを取った。７１件の回答の内、「シャトルバスを利用したい」と答えた生徒は１２名、１６．９％であった。ただ、この１２名の中には保護者の職場が学校のすぐ近くであったり、自宅が山側であり、飯詰駅まで行く必要のない生徒や、列車利用のために大曲駅まで行くのが現実的ではない生徒の回答も含まれているため、実際の利用者としてはもっと少なくなると思う。保護者を交えたアンケートを取ってみるとまた違った回答になるかもしれない。

（山城校長）

現１、２年生のみのアンケートであったため、新入生、保護者を絡めたアンケートを実施しなければならないと考えている。利用希望者が多数となり、いざとなった場合はどのように申請したらよいのだろうか。

（佐藤会長）

教育委員会ではないか。

（栗林委員）

町で運行しているのはスクールバスのみである。それ以外のバスとなればバス会社かタクシー会社になるのではないか。

（佐藤会長）

飯詰駅周辺の美郷中学校生が乗るスクールバスに一緒に乗って学校周辺で降りることはできそうな気もするがどうなのか。

（栗林委員）

乗り合いにすることも実現は難しいだろう。

（山城校長）

⑤に関しては継続して進めていきたい。次に「⑥全校で楽しめる行事を増やす」について、特別活動部より説明がある。

（照井）

特別活動部で担当している大きな行事は笹竹祭、クラスマッチ、運動会である。他に希望があれば全校生徒からアンケートを取り、生徒会と実施について検討しながら進めたいと思う。

（山城校長）

今ある行事よりもっと面白い行事を増やしたいというのであれば、アンケートをとって採用できそうなものを実現したい。栃木県の例であるが、校内でボランティアの賞状を作り、多く賞状を得た人をさらに表彰するといった取り組みをしている学校もある。校内で話し合ったときにはｅスポーツ部をつくってみるという意見も出たが、機材の準備に相当な費用がかかるとのことであった。県内の例としては、仁賀保高校ではｅスポーツ部をつくり、ｅスポーツの活動をしながら、地域の高齢者にパソコンの操作を教えるという活動をしている。

次に「⑦夜市、美郷フェスタなどの地域イベントの事務局（会議の場）を六郷高校内に設置してはどうか？」について。生徒数がかなり減ってきているので、全校生徒が関わることのできるような地域イベントがあればと考えていた。

（照井）

過去に夜市のステージ発表に参加した。別なイベントを企画しようとしたことはあるが、機材から揃えることがネックとなり実現ができなかった。イベントに出店された出店等で、販売のボランティアをするような参加の仕方が望ましいと思う。

（山城校長）

次に「⑧中学校に出向いて、六郷高校の活動を知ってもらう機会を作れれば？」について。　可能であれば中学３年生とその保護者に説明する機会があればよいと考えている。このことについて、教務部より説明がある。

（石川）

美郷中学校の行事の一つに、数校の高校が美郷中学校に出向き説明をするというものが数年前まであった。福祉科の情報発信も含めて、小学生や中学生の若い世代に伝えられればよいと考えている。

他にも、様々な町の行事に中学校と一緒に参加できれば中高の繋がりも深まっていくのではないかと感じた。

（大阪委員）

かつては高校の先生を招いて説明会を開催していた。しかし、今は様々なメディアもあり、２、３校の体験入学に参加しているため説明会の必要性が薄れてきた。もし、六郷高校が、美郷中学校で学校説明会を行うとしたら、ポスターセッションのようなブースを学校祭で設けたり、六郷高校生徒や職員に来てもらい説明するような機会であれば設けられるかもしれない。

（山城校長）

①～⑧について何か意見ないか。

（鈴木委員）

⑧について。長谷川委員が六郷高校の写真部と、美郷中学校をつなげる取組をした。

③について。学校給食の実現はかなり難しいようである。給食にこだわらなくても、持参する昼食以外に、何らかの形で食べられるようになればよいことだと思う。他県ではスマホで弁当を注文し、スマホで決済までできるサービスを利用している例もある。以前、ある事業所が六郷高校に弁当販売をしていた時期もある。しかし、代金の回収がネックだという話を聞いたことがあるが、スマホ決済であればそれも解決できる。

（高橋委員）

①について。推奨タブレットはいくらするのか。

（山城校長）

推奨機は５２８００円と５４８００円のものである。これは補償が入っていない価格である。補償が入ればプラス６０００円くらいにはなるが、設定を業者が行ってくれるというメリットもあり、これを保護者にアナウンスする段階である。５００００円を切る端末は聞いたことがない。

（高橋委員）

支払いは一括か。分割があれば負担は幾分軽くなる。

（藤岡委員）

使用後はどうなるか。

（山城校長）

自分で買った物なので自分のものである。

（高橋委員）

ＩＰａｄでもよいのか。

（鎌田）

物理的なキーボードがあることが条件になっている。ＩＰａｄにも後付けでキーボードを付けることができるので、それを満たせばよい。

（熊谷委員）

自宅で家族も使えるのであれば購入に踏み切りやすくなるのではないか。

（山城校長）

ほとんどの家庭でＷｉｆｉ環境があるので自宅でも十分に使うことができる。学校とタブレットでやりとりすることもあるため、自宅で使用できるというのも満たさなければいけない条件である。

（藤岡委員）

④について。「六高のいいところ」を集めたパンフレットを作成し、近隣の中学校に配ることができれば、子供にも情報が伝わりやすいのではないか。スマホを自由に使ってもよい、自販機が充実しているとか、シャトルバスがあるといったような中学生に魅力的な情報を発信できればよい。

（小西委員）

魅力を保護者に伝えるのか、中学生に伝えるかを絞った方がよいのではないか。タブレットの購入費の補助、弁当のスマホ注文は保護者に向けた魅力である。山城校長が考えているのはどちらに向けた魅力か。

（山城校長）

中学３年生とその保護者である。

（小西委員）

そうであれば２つの手立てを考えなければいけない。今回の①～⑧についてもどちらに向けるのかをはっきりさせてみるとよいと感じる。

タブレットの補助については、教育振興会から出せるのではないか。大きい額は難しいとしても、例えば分割払いの利息を教育振興会から補助をするということもできるのではないか。

（栗林教育長）

教育振興会からの補助は基準があって決まるものである。特別に補助をするというようなことはできない。

（事務長）

例えば、一人１００００円を教育振興会から補助するとなれば、資金を使い果たして活動停止となる。

（山城校長）

誰をターゲットにするかということをもう少し考えていきたい。

（鎌田）

以上で協議Ⅰを終わる。協議Ⅱの進行は佐藤会長にお願いする。

３　協議Ⅱ　１６：２０～１６：４５（２５分）　進行：佐藤会長

「学校評価を基にした今年度の振り返り」

(1)学校評価結果の説明（教頭）

学年・分掌の成果と課題もあるが、アンケートに絞って説明したい。

回答の推移と傾向を確認したいと考え、昨年度と同じアンケートにしている。先週、校内でも評価についての会議を行った。

生徒・保護者のアンケート結果について共通しているのは、過去３，４年も含めて肯定的な意見がが多いことである。特に、設問１７コミュニティスクールについては、生徒・保護者ともに８０％以上が肯定的な回答であり、ここ数年上がり続けているようだ。

設問１教育方針・教育目標が伝わっているかどうかについて。「わからない」がかなり減少している。学級通信や学年通信等の発行により、学校の流れが分かってきた

というのも影響しているのではないかと考える。

設問５授業理解について。大多数が肯定的な回答であり、保護者も同じ認識でいるようである。しかし、ここ数年「授業が分からない」という回答が一定数ある。特に今回は２年生でそういった生徒が目立った。進路を意識し始める時期に、授業が大切であると認識していることが数値に出ていると感じる。ｅ－ラーニングも利用しながら継続して「分かる授業」を作っていかなければならないと感じる。

設問１８もっと力を入れて欲しいことについて。最多の回答は「進路に対応できる学習指導」であった。進路を見据えた学習活動が大事であることを再認識させる結果である。

昨年度、部活動への関心がだんだん薄くなってきているといった分析があったと思うが、今年度に関しても大きく数値が増えていることはない。部活動は学校の活性化の要因の１つでもあるので、長期にわたる部活動のアピールを考えていかなければならない。

コミュニティ・スクールについて。高い関心、高い評価を得ることができている。こういった協議会を開いて様々な意見をいただけるのも大きい。また、廊下ですれ違うとき「今年のコミュニティ・スクールは何をやるのだろう」と話している生徒もいる。生徒の関心も高くなっているように感じる。

自由記述について。部活動に関する指摘がいくつかあり、また、学習指導、進路指導に関するものも少数だがあった。指摘に関しては各分掌の主任とも共有し解決に向けていく。

教員のアンケートについて。全体数値を見ると、回答の平均が３．３となっている。回答数の多さを考えると「達成できた」とういう回答がかなり増えたということになる。

危機管理について。今年度は近隣でも熊が多く目撃され、教員の意識向上にもつながった。一方で学校図書館アンケートのように数値が上がらない項目もある。こちらに関してはあまり学校でもテコ入れをしていない部分でもあり去年も低かったため、反省点である。

生徒指導案件について。生徒数が減少しているが、逆に捉えると個に応じた指導の充実に繋げられることを意識して行っていかなければならない。

校内組織についても記述があるが、全員の先生が活躍できる場をつくっていかなければならないと考える。委員の皆様には色々と知恵をお借りするかもしれない。

（鈴木委員）

学校案内が各中学校に届いているとは思うが､その作り方を工夫するとよいと思う。六郷高校に行けばこういう楽しいこと、良いことがたくさんあるということを詰め込みながら、従来とは違ったものを作るとよい。

（大阪委員）

美郷中学校で得られる六郷高校の情報は、高校紹介の冊子や、六郷高校のコミュニティ通信であり各教室にも掲示している。

（佐藤会長）

以前、松田町長、山城校長と話したときも、単なる学校情報を載せたパンフレット

ではなく、特色を載せたパンフレットを全県に配布すればよいという話が出ている。

（大阪委員）

進路指導室に高校の案内を置いているので､目立つようにそこに置くことはできる。

（佐藤会長）

現在の学校紹介は魅力を伝えるものではなく、単に学校の歴史や在籍生徒数のような情報しか載っていない。

（鈴木委員）

学生の獲得競争が激しい私立大学のようなパンフレットを六郷高校でも作ることができればよい。

（佐藤会長）

そういったものを作るとなれば、先生方よりも我々委員のほうが長けているので協力もできそうである。

（藤岡委員）

そのパンフレットを生徒が作成すればよい。

（熊谷委員）

現在職員がインスタグラムを更新していると思うが、ＳＮＳを介した情報公開は、生徒にやらせたほうが中学生に伝わりやすいのではないか。中学生の保護者に対しては先生方からの情報、中学生には生徒からの生の声や、感じたことを情報公開すればよい。ＳＮＳ担当職員からも、担当の同好会を作るべきという意見が出ている今、生徒のインスタグラムの公開について検討してはどうだろうか。

ＰＴＡ活動について、現在役員を探すのも大変であると思う。しかし保護者の参加なしに運営していくのは難しい。以前佐藤会長から「ＰＴＡに地域の人に参加してもらうのはどうか」という意見が出たことがある。そうでもしないと、資金面のみならず、運営がままならないのではないか。もう少し保護者に入り込んでもらわないといけない。

（鎌田）

たくさんの意見ありがとうございました。

４　閉会行事　　１６：３５～１６：４０

⑴ 学校運営協議会副会長挨拶

六郷高校の生徒は本当に良い子が多い。六郷高校はよいところだと思って登校している生徒も多いはずである。タブレットの補助に関しては良い回答ができなかったが、こういった生徒を応援したいという気持ちはある。引き続き六郷高校に協力できるようにしたい。

本日はありがとうございました。

⑵ 閉会

（教頭）

協議Ⅱの議題となったアンケート結果は後日学校ホームページにも掲載する。

（鎌田）

今回の議事録を後日郵送する。加除訂正があれば連絡をいただきたい。